

学校名	佐賀市立南川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上においては、依然として課題が残る結果であった。そのことから、佐賀県調査において県の水準に並び越えることを目標とし、校内研究での授業改善、朝の特設タイムの取組、放課後チャレンジスクールでの基礎学力の定着を徹底・継続することで、学力の向上を図る。 ・今年度は、特別支援学級在籍の児童が増えることから、児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、特別支援教育についての保護者や地域の理解は必要不可欠である。
2 学校教育目標	<p>自分を磨く子どもの育成 ～ 自ら学び 心豊かに たくましく生きる南っ子 ～</p>
3 本年度の重点目	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を磨く (①主体的・対話的で深い学びへ ②指導力の向上 ③時代が求める課題への対応) ・豊かで多様な感性を磨く (①豊かな心と多面的考え方の育成②特別支援教育の充実③生徒指導・児童理解) ・健やかでたくましい心身を磨く (①健やかな体とたくましい心づくり ②安全・防災教育 ③特別活動)

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・マイプランを共有し、研修会で見直し評価改善をして取組を促進させる。 ・「南川副小型授業」を共通理解し、改善チェックカードを活用し全職員で実践する。
	○校内研究の充実	○1年～3年は、CRT国語の結果を全国標準値以上にする。4年～6年は、佐賀県調査の国語において、結果を県の平均値以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業を中心に「ことば集め」に取り組みせ、読書力の向上を図る。 ・スピーチタイムの充実を図り、それをいかした授業改善に取り組む。 ・おすすめの本への関心を高める手立てを各学級で取り、読書習慣の定着を図る。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや規律の尊重、善悪の判断などを身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断等)肯定的な回答85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業づくりの研修やQUテストの校内研修を実施する。 ・毎週木曜日を道徳教育の日として、人権教育や道徳の充実を図る。 ・ふれあい道徳での授業実践を家庭に発信し、連携を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応し、今年度発生したいじめ問題は、未解消件数を0(ゼロ)にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「いじめ・いのちを考える日」にアンケートを実施し、6月、11月に教育相談週間を設ける。 ・いじめ問題への対応に関する研修会を開き、全職員の意識を高める。 ・連携会議等で事案についての共通理解を図り、組織で対応する。
	◎志を高める教育の実践	◎学校評価の時期に児童アンケートを実施し、「夢や目標に向かってがんばっている」と肯定的な回答90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用する。 ・月末に学期のめあての達成について、振り返りをする。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動や外遊びなど体を動かす時間が、1週間で210分以上の児童生徒60%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度アンケートを実施し、児童の運動習慣についての実態を把握する。その上で、学級だよりや懇談会等で保護者にも周知を行い、児童の運動習慣について見直すことを促す。
	○「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」「8時登校」ができる児童を、90%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活振り返り週間」において、重点取り組みの中に「早寝・早起き・朝ごはん」と「8時登校」を設定する。また、アンケート結果を学級だよりや懇談会で活用し、家庭との連携により、児童に望ましい生活習慣の形成を促す。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、出勤後にその日の帰宅時刻を設定し、計画的に業務に取り組む。 ・毎週金曜日の定時退勤日や学期末特別校時を設ける。
	○教職員の負担感の軽減	○学校評価及びストレスチェックなどのアンケートで、「積極的な協力体制ができて」「働きやすい職場の雰囲気がある」について肯定的な回答の割合を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・3部会(生活、心づくり、体づくり)の中で協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○特別支援教育	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解度を85%以上にする。 ○講師を招聘し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに環境づくり等について研修会を1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式や学級懇談、月に1回発行する特別支援教育に関する通信等で保護者や地域への啓発を図る。 ・「校内支援会議」で、全職員の共通理解を図り、指導・支援を行う。 ・保護者や関係機関と連携しながら就学支援へとつながっていく。
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0(ゼロ)にする。 ○職員アンケートにおいて、「指導方法の改善に努めている」と回答した割合を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律、教職員としてのマナー等について、講師を招聘し、研修会を行う。 ・月に1回「ゼロの日」の取組。 ・校内研究の充実を図る。